

平和な世界を目指して

気仙沼市立鹿折中学校 3年 小野寺心優

夏休みになると、毎年、原爆や終戦記念についてなど、戦争に関する番組がテレビで報じられます。今までは、特に気を留めずにいましたが、授業で歴史を学び、これまでとは違った気持ちで番組を見ている自分がいました。私のひいおばあちゃんは、太平洋戦争を経験しています。私が小学校4年生の時、太平洋戦争があった時の大変さや辛さを動画や体験談もとに話してくれたことがありました。でも、その時の私は、まだ小学生。しかも歴史の学習をしたことがなかったので、その内容をよく理解することはできず、「そんな出来事があったんだ」ぐらいにしか感じられませんでした。

中学生となり、歴史を詳しく学ぶと、色々なことが分かりました。特に日本は太平洋戦争で大きな被害を受けたこと、また、第2次世界大戦で多くの尊い命が失われたことを知りました。

1945年8月6日と9日に広島と長崎に原子爆弾が落とされ、多くの人々が亡くなりました。被害に遭った人の写真を見ましたが、その傷跡はとても酷いものでした。しかし、尊い命が失われたのは日本だけではありません。第2次大戦の犠牲者は5千万人ほどと言われています。こんな多くの犠牲や悲しみしか生まない戦争に何の意味があるのか、私は不思議でなりません。

戦争をする理由は様々です。お金や資源、宗教、考え方の違い、それぞれの国の利害関係……。それは確かに生きていく上で大切で大事かもしれません。しかし、人の命より大切なものはないはずです。争いの手段ではなく、国同士で話し合うなど、別な方法で解決できなかったのでしょうか。

今もまだ、民族間や宗教間の対立、武力による衝突があると聞きます。どこの国でも、その国なりの課題があると思います。ですが、それを二度と戦争などという悲しい方法で解決するのではなく、話し合いなどの平和的な手段をとってほしいと思うのです。世界には、平和とはいえない状況があります。昔と比べればずいぶんと平和になったと思いますが、私はまだ平和だとは思いません。今もどこかの国で内戦が起こったり、またある国では飢えや病気で死んでしまう人たちが大勢います。こんな世界が果たして本当に平和なののでしょうか。日本でも毎日のように犯罪が起こっています。戦争がなくなっても、こうして国の中で争いが起こったり、恵まれない環境のせいで死んでしまったりと、日々私たちの知らないところで命が失われています。このような人たちを全員救うというのは今すぐはできないかもしれませんが、その中でも救える命を救い、この世界で理不尽な死を遂げる人がいないようになることが本当の平和なのではないかと思います。

原爆投下から74年が過ぎました。今では、その時、被爆され、その悲劇を語り継ぐ生き証人の人たちも少なくなってきました。それに伴い、原爆の風化が心配されています。

二度と原爆、そして戦争の悲劇を繰り返さないよう、私たちは原爆の悲惨さについて知り、そのことをこれからもずっと伝えていかなければならないと思います。

平和な世界をつくるためには、一人で大きな行動を起こすことは難しいけれど、自分の平和に対する思いを強く伝えていき、その思いが人から人へ伝わっていけば、やがて世界中を動かすような力になると思います。世界中の人たちが笑顔で誰でも安心して「平和な毎日」を過ごせるために……。